

令和6年度 文系から理系までの学生を遍く対象とする数理・データサイエンス教育プログラム(リテラシーレベル)
自己点検・評価結果(案)

令和7年4月

岡山大学AI・数理データサイエンスセンター

自己点検・評価の視点	点検結果	点検結果の根拠	改善に向けた取組	備考
プログラムの履修・修得状況	○	教育プログラムを構成する各学部の「数理・データサイエンスの基礎」については、令和6年度は全学部で必修科目となっており、当該学部の教員らがそれぞれ学部の状況に応じた内容の授業を行っている。 授業において、数理・データサイエンスを専門とする大学院生等を活用しTAやSAを配置し、授業をサポートする体制を整備、修得を促したところ、令和6年度全学部で履修者2,324名、合格者2,267名で修得率は97.5%であった。 令和7年3月卒業者のうち、同授業を修得した1,785名に対して学長名の修了証を交付し、AI・数理データサイエンス教育推進部門のホームページで周知している。	大学院生等を活用しTAやSAを配置し授業をサポートする体制は修得率の向上に貢献するものであり、今後も継続する。また、学長名の修了証についても毎年交付する。	「数理・データサイエンスの基礎」は令和5年度から全学部で必修科目となっている。
学修成果	○	令和6年度シラバス等を確認した結果、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の要件であるモデルカリキュラムの5つの審査項目との対応関係があると認められる。	引き続きモデルカリキュラムとの対応を考慮しつつ教育内容を充実させる。	
学生アンケート等を通じた学生の意欲と満足度	○	受講者全員に対して授業評価アンケートを実施しており、令和56年度の「学生が授業に能動的に参加し、意欲的に取り組んだか。」についての5段階評価は全学部平均4.16、「学生の授業全体に対する満足度」についての5段階評価は全学部平均4.16であり、概ね学生の意欲・満足度は高いと考えられる。授業内容や授業方法の改善を図る体制及び後輩等他の学生へ推奨度の向上につながる体制が整備されている。	当該授業の学生の意欲・満足度をさらに高めるべく、授業アンケートの結果を基に授業の質や内容の向上を図る。	
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	○	教育プログラムを構成する各学部の「数理・データサイエンスの基礎」についての履修者数、履修率は令和6年度は全学部において必修科目となっており、令和6年度履修者は2,324名であった。	学生が履修の際に参照する学生便覧に記載するとともに、新入生に対しては入学当初のWEB配布物へ本プログラムについて掲載を行うことで周知を徹底する。	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価				本教育プログラムは令和2年度から開始し、令和5年度卒業生(64名)が最初であり、令和6年度は1,792名の修了者が卒業した。 評価方法としては本学では3、4年に1回卒業生が就職した企業等を対象としたアンケート調査を実施しているので、今後この結果等を利用する。

自己点検・評価の視点	点検結果	点検結果の根拠	改善に向けた取組	備考
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	○	数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムにおける中国5国立大学の数理・データサイエンス部会によるシンポジウム等(数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム第1回中国ブロックワークショップ6月7日, 第1回コンソーシアム中国ブロックシンポジウム7月12日, 第2回コンソーシアム中国ブロックワークショップ10月4日, 第2回コンソーシアム中国ブロックシンポジウム11月29日, 第3回コンソーシアム中国ブロックワークショップ3月17日)に参加して, 中国地区の大学等をはじめとする産業界からの視点を含む意見を収集している。 また, 3月13日には主に岡山県内の大学, 高等学校の関係者を集めたシンポジウムを開催し, 本学の取り組みを広く学外にアピールするとともに, 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見を収集している。 令和6年度より, 産業界における需要が高まっている生成AIに関する解説を, 教育プログラムに組み込んでいる。	今後も引き続いてアンケート調査の分析結果や中国地区の大学等, 産業界からの視点を含む意見を収集して, 教育プログラムの改善に活用する。	
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	○	本教育プログラムの「数理・データサイエンスの基礎」の授業は令和5年度から全学において必修科目であり各学部の1年次生全員が受講できる体制となっている。 当該授業は, 各学部の教員が授業を行うため, 数理・データサイエンス・AIが各学部の領域で活用されている最新の事例, 実例などを扱い, 学生が学ぶ楽しさや学ぶことの意義を理解し興味を持ちやすい内容となっている。 さらに, その他の授業科目についても, 適宜具体的な事例を想定した演習を取り入れるなど履修しやすい工夫をしている。	令和5年度から当該授業は全学部で必修科目となっており, 今後も継続開講するため, 授業内容については適宜改善を図っていく。	
内容・水準を維持・向上しつつ, より「分かりやすい」授業とすること	○	授業評価アンケートを全学的に実施しており, 結果を担当教員および各学部教授会にて全構成員で共有しており, 個々の教員の授業内容の向上に寄与している。 また, 評価に問題のある授業については, AI・数理データサイエンス教育推進部門や各学部教務委員会等から担当教員へ助言を行う体制を整えている。 AI・数理データサイエンス教育推進部門において, 学生アンケートや関連学会の動向, 他大学の授業内容, 地域企業, 官公庁からの意見を参考に, 授業の内容及び実施方法の見直し改善を図っており, 今後も継続していく予定である。	今後も継続して授業評価アンケートの分析結果や関連学会の動向, 他大学の授業内容, 地域企業, 官公庁からの意見を参考に, 授業の内容及び実施方法の見直し改善を図っていく。	

本教育プログラムは令和3年度文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」に認定